

パレット -Palette-

2025. 秋

NO.72

ご自由に
お持ち帰りください

久留米リハビリテーション病院
150周年記念連載 第三章



～笹井眞砂子さまより～

CONTENTS

- ・「開業 150 周年記念連載 第三章」
- ・院長コラム 「マイナ保険証」と「資格確認書」についての知識
- ・150 周年記念イベント「オープンホスピタルの様子」
- ・外来診療のご案内
- ・季節のレシピ

当院のホームページも
ご覧ください。



<https://www.kurume-reha.or.jp>

理 念

■必要不可欠

「地域と生きる」「地域を活かす」地域において必要不可欠な存在であること。
「あると便利」ではなく「ないと困る」組織作りを目指します。

基本方針

■全人的医療の提供

説明と同意のもとに、個々の皆様の病状や人生観に合わせた尊厳ある医療を目指します。

■医療の選択性の確保と総合支援

皆様をご希望される医療機関等へのご紹介や、介護福祉関連サービスが継続して受けられるよう支援いたします。

■地域ネットワーク

地域における医療・介護・福祉の連携活動、交通事故重度障害者の支援事業、福岡県の介護予防事業、久留米市の包括支援事業などに対して、積極的に参加し支援していきます。

■自己研鑽

チーム医療を駆使した最新医療を提供するため日々自己研鑽に努めます。

前号で2代目から4代目まで、歴代の院長の歴史を観ていただきました。
いよいよ、この章では現在の柴田元院長を深掘りするためインタビューを行いました

FAMILY HISTORY

ファミリーヒストリー 5代目の躍進

～150年の歴史を受け継ぎ、地域と共に未来へ～

第三章

5代目 柴田 元

柴田 元

昭和26年 10月18日に久留米市山本町にて生を受ける。
昭和52年 久留米大学医学部卒業 同大学医学部第Ⅲ内科入局
昭和54年 門司市民病院勤務 大阪国立循環器病研究センター勤務
昭和58年 久留米大学医学部第Ⅲ内科 助手
平成08年 現職 医療法人 かぶとやま会 久留米リハビリテーション病院 病院長

子ども時代の思い出

幼少期は田舎で育った、いわゆる「はなたれ小僧」でした。保育園の初登園の日には泣きながら連れて行かれたことを、今でも鮮明に覚えています。小学校時代はのんびりマイペースでしたが、足の速さだけは誰にも負けず、徒競走やリレーでは常に1番を走っていました。小学校時代には転校、中高等学校時代は下宿や寮生活を経験し、寂しさを抱えながらも勉学や部活動を通じて多くを学びました。

医師を志したきっかけ

医師を目指したのは、代々続く実家の病院に育ったことが一番の理由です。高校時代は微積分に夢中で数学者への憧れもありましたが、家業を継がねばならず、とりあえず医学部合格を目指しました。現役合格はならず、浪人時代には一日15時間以上机に向かい、久留米大学医学部を目指しました。試験当日は39℃の高熱に苦しみながらの受験でしたが、不思議なひらめきに導かれ、補欠合格となりました。

大阪での修練

卒業後は久留米大学循環器科に入局。しかし、大学の空気が合わずに国内留学の機会を待ち、卒後1年半で医局を離れ大阪国立循環器病センターのレジデントとして勤務。20代後半の3年間は、まさに病院に寝泊まりするような過酷な日々。200日以上を24時間体制で過ごしたように思います。それでも、この時の経験が今の医療の土台や自律心を築いてくれました。

実家病院の継承と葛藤

本来、大阪にとどまるつもりでしたが、父の病や母の他界、病院存続の危機などが重なり、帰郷を決意しました。帰郷後しばらくは久留米大学で、大阪で覚えた技術の伝承を行いながら、実家の病院で非常勤医として診療を行っていました。35歳だったか「地域に必要とされる病院として再生させたい」という思いから、20年をかけて再構築する計画を立てました。その後、胃が痛む日々が続きましたが、先祖や地域の方々、多くの職員に支えられ現在に至っています。

医療機能評価機構との出会い

「良質の医療」「良い病院」とは何かを模索していた時、1998（平成10）年夏、日本医療機能評価機構の活動に出会いました。「評価調査者」「評価部会委員」として25年にわたり研鑽を積み、理念づくりや病院運営に役立てることができたのは、かけがえのない経験です。

久留米市行政とのかわり

2000（平成12）年から介護保険制度は始まりましたが、初年度から介護認定審査会の設置、運営、研修等にかかわり、2025年3月をもって退任しました。また2006（平成18）年4月から現在に至るまで久留米市全域の地域包括支援センターを運営する一般社団法人くるめ地域支援センターの理事長として活動しています。

かぶとやま会のこれから

2025年、かぶとやま会は創業150年を迎えました。現在は、「財団法人日本医療機能評価機構高度専門リハビリテーション病院」「国土交通省NASVA頸髄損傷モデル病院」「福岡県筑後地区介護予防支援センター」として認定を受け、地域に根差した医療を展開しています。

また、新たな世代への継承も進めています。

2024年からは元久留米大学看護部長の國武栄子看護部長のもとで看護・介護部門の強化が始まっています。2025年秋以降には事務体制の刷新も進めています。2026年には長男（柴田怜）が医師として合流し、将来の院長就任を目指します。

2025～2030年はわが国にとって社会保障体制のターニングポイントとなる時代です。2015年から積み残されてきた医療再編が2026年から強行されると聞いています。医療と介護にかかわる人たちだけでなく、国民にとっても大きな変化をもたらすことが予測されています。そのことを念頭におき、次の時代にふさわしい「かぶとやま会」を築いていきたいと考えています。





「マイナ保険証」と 「資格確認書」

院長コラム についての知識

前回、マイナ保険証の話をしました。久留米市の場合についてもう少し詳しく説明します。

従来の紙の健康保険証は、すでに新しく作ることができなくなっており、国民健康保険の場合、2025年7月いっぱいでは使えなくなっています。そのため久留米市の場合は、マイナ保険証を持っていない方で国民健康保険および後期高齢者保険の方は、自動的に「資格確認書」という紙が送られてくるはずです。この「資格確認書」は病院や薬局でこれまでの保険証と同じように使うことができ、有効期限はおおむね1年ですが毎年自動的に更新されますのでご安心ください。

一方で、マイナナンバーカードを使った「マイナ保険証」を利用されている方も、保険の資格は自動更新されるため、ご自身で更新手続きをする必要はありません。ただし注意していただきたいのは、マイナナンバーカードそのものに有効期限があるということです。成人は10年、未成年は5年で期限が切れるため、期限が近づいたらカードの更新が必要になります。さらにカードに入っている「電子証明書」には5年の有効期限があり、こちらも更新の手続きが必要です。電子証明書には2種類あり、その中の「利用者証明用電子証明書」は身分証明証の役割を持っており、この「電子証明書」が切れてしまうと、「マイナ保険証」も使えなくなってしまうので、更新を忘れないようにご注意ください。

<<<まとめ>>>

1. 国民健康保険証について

従来の紙の健康保険証は2025年7月31日以降、使えなくなっています。

2. 資格確認書（しかくかくにんしょ）

- マイナ保険証をお持ちでない方には市から自動で送られてきます。
- 病院や薬局で、今までの健康保険証と同じように使えます。
- 有効期限は1年です。毎年、自動更新されます。

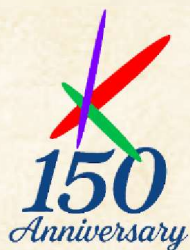
3. マイナ保険証

- マイナナンバーカードを健康保険証として使うものです。
- 保険の資格情報は自動更新されるためご自身での手続きは不要です。

4. 注意してください

- マイナナンバーカードの有効期限は発行日から10回目の誕生日まで（未成年者は5回目）。
- カードに入っている「電子証明書」の有効期限は年齢を問わず5回目の誕生日までです。
- 「電子証明書」の期限が切れると「マイナ保険証」も使えなくなります。
- 「マイナナンバーカード」「電子証明書」の有効期限が近づくと、市役所から更新のお知らせ（通知書）が郵送で届きます。通常は、期限の約3か月前に届くようになっています。自動更新ではありません。手続きのため役所に出向く必要があります。

病院に行くときは、「マイナ保険証」か「資格確認書」をご持参ください。



医療法人かぶとやま会
久留米リハビリテーション病院
開業150周年記念

オープニング
企画

オープンホスピタル

9月21日に開業150周年記念のオープニング企画として
オープンホスピタルのイベントが開催されました。

笑顔あふれるひとときに

秋晴れの空の下、子どもからご高齢の方まで幅広い世代の方々、
延べ180名を超える皆さまにご来場いただきました。

体験コーナー、地域の出店ブースなど、盛りだくさんの内容に、
地域のつながりを感じられる、あたたかいひとときとなりました。



電気治療体験



車椅子バスケットボール体験



抱え上げない介護体験



電動車いす タイムトライアル



リフトに乗って
空中魚釣り体験



自助具を使ってつかみ取り体験



子ども白衣体験

外来診療のご案内

	診療科	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	一般外来	一般内科 ※予約不要	柴田 怜Dr.	平野副院長	田原Dr.	柴田 怜Dr.	柴田 怜Dr.	休診
	専門外来	整形外科 ※予約不要	泌尿器科	整形外科 ※予約不要		整形外科 ※予約不要	整形外科 ※予約不要	
			糖尿病 内分泌科		消化器内科	膠原病 ※第3週		
		外来リハビリテーション ※消炎鎮痛は午前のみ						
午後	一般外来	休診(急患に関しては受け付けております)					休診	
	専門外来		皮膚科 ※14:00～					
		外来リハビリテーション ※消炎鎮痛は午前のみ						
健康診断・予防接種		予約制となっております、外来受付にお問い合わせ下さい。						

※予約の方を優先いたします。急患及び紹介の場合は、午後でも診察を行っています。

※ご不明な場合はいつでもお問い合わせください。

季節のレシピ 鶏肉とゴボウの味噌マヨ炒め

お肉とゴボウに味噌マヨたれが絡んでご飯が進む～

秋から冬にかけて旬を迎えるゴボウとれんこん！食物繊維が多く含まれ、便秘解消に効果あり。たんぱく質源のお肉と一緒にとれる主菜料理の紹介です。

材料(2人前)

ゴボウ 3/4 本、マヨネーズ 小さじ2
鶏もも肉 200g、塩少々、ピーマン 2 個

A 味噌・みりん 大さじ1 と 1/2
砂糖 小さじ1、ゴマ 小さじ1
マヨネーズ 大さじ1



作り方

- ① ゴボウは縦半分に割り斜めに薄切りにし、水にさらしあく抜きする
10分ほど茹で、水気を切る
- ② フライパンを熱して、マヨネーズを溶かし、一口大に切った鶏もも肉を加え、
塩をふり、火が通るまで炒める
- ③ ②にゴボウと千切りしたピーマンを入れ、混ぜたら A を加え強火でさっと炒める

医療法人かぶとやま会

久留米リハビリテーション病院

〒839-0827

久留米市山本町豊田 1887

TEL: 0942-43-8033 FAX: 0942-45-0388

HP: <https://www.kurume-reha.or.jp>

e-mail: k-reha@ktarn.jp



〈編集後記〉

今年の夏も相変わらず猛暑が続きましたが、9月も半ばに入った途端、朝晩が秋らしい空気に変わり、季節を感じるようになりました。当院の150周年記念イベントもまだまだ続きますので、ぜひご参加ください！！